

予算決算常任委員会活動評価総括表（平成28年度）

1 委員会活動の振り返り（委員間討議の結果の概要を記載する）

（1）年間活動計画の進捗度

- ・計画していたものは予定通り行い、それ以外にも県外調査や参考人招致が追加されるなど、全体として適切に進められた。
- ・各分科会で十分に審議でき、全体会など一人一人に発言の機会があり充実していた。

（2）委員会運営の円滑度

- ・十分な審査、調査を実施し、委員長報告も各委員が合意できたものであった。
- ・総括質疑の進行については委員長が午前、副委員長が午後と分けたことを次期に引き継いでもいいのではないかと。ただ、副委員長が進行中は委員長が在席できないことはどうにかならないものか。
- ・成果レポートについての意見を知事に申し入れを行った。
- ・総括質疑の際、質疑者は演題の後ろに待機席がある方がいい。
- ・総括質疑の順番は多数派会派の順になっているが、後半だと質疑内容が重なる場合があり、やり方を次期の方で検討してもいいのではないかと。その際、同一会派が昼休みで分断するのは好ましくないが、午前の隙間の時間に少数会派が質疑を行うやり方があっていいのではないかと。

（3）議員間討議の充実度

- ・各分科会で議論してきたものであり、難しいところがある。
- ・議員間討議は意見書や請願の採択は会派によって意見が分かれたりして大いに議論が行われることがあるが、通常の議案審査について議員間討議が少ないのはやむを得ない。必要ならば、正副委員長が発言を誘導するとよい。

（4）県内外調査の充実度

- ・勉強になり、大変よかった。
- ・茨城県の取組はマニアックな部分もあったが、参考にしてほしい。三重テラスを財政の観点で調査するのは初めてであり、予算をかけることの意味について議論ができたことはよかった。

（5）県民など多様な意見を活用した調査・審査の充実度

- ・県外調査の説明者を参考人招致し、全議員で学ぶことができてよかった。
- ・参考人招致の適切な実施時期については、次期の課題としてほしい。
- ・国の骨太方針が出される時期に、その考えについての参考人招致を行うと、翌年度予算の議論に生かすことができていると思う。日程として難しいかもしれないが、案として申し送りをしたい。

（6）調査・審査結果の施策への反映

- ・委員長報告や成果レポートなど意見に対する反映は一定あった。しかし、他会計からの繰り入れなど奇策な手法を取らずに知恵を出すよう意見を述べたことに対して、施策へ反映がされなかったことは残念だが、議会からも提言ができなかったのも、それが力不足であり反省点である。

2 各委員（理事）の評定の平均点

項目	評価の視点	平均点
(1)年間活動計画の進捗度	<p>年間活動計画の内容は適切なものでしたか。</p> <p>重点調査項目について十分な調査・審査を行いましたか。</p> <p>年間活動計画に沿って委員会活動を行いましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先議案件も適切に対応できた。 ・当初活動計画に重点調査項目は設定しなかったが、県外調査や参考人招致を追加実施するとともに、突発的な先議議案等についてその都度対応するなど、適切であった。 	4.1
(2)委員会運営の円滑度	<p>すべての議案・事項を丁寧に調査・審査しましたか。</p> <p>委員会で十分な議論をしましたか。</p> <p>委員長報告が各委員の合意したものとなるように努めましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長の議事進行と自治法上のクリアをすべき点。 ・総括質疑における正副委員長が交代する方式を恒常的なしくみにするための規定を検討されたい。 ・委員長報告や成果レポートは、委員会や分科会での意見等を総括的に適宜・適切に反映させ、知事に申し入れを行った。総括質疑を正副委員長の分割運営(午前・午後)で実施し、その充実を図った。 	4.0
(3)議員間討議の充実度	<p>議員間討議の機会を十分に活用しましたか。</p> <p>議員間討議を十分に行いましたか。</p> <p>議員間討議を通じて合意形成を図るよう努めましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会におけるの充実が重要なので特にいい。 ・議論を二分するような案件がなかったので、討議の機会が少なかった。 ・本年度も議論を二分するような案件がなかったこと。また、各分科会において詳細に慎重審議されてからの本委員会での議論となることから、討議の時間を設けたが行われなかった。 	2.9
(4)県内外調査の充実度	<p>県内外調査の調査先は適切でしたか。</p> <p>調査先で十分な調査を実施しましたか。</p> <p>県内外調査における内容をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重テラスに行けたのは良かった。 ・総務省(地方財政計画)、茨城県(資金調達手法)とも大変参考になった。 ・県外調査の時期をもう少し早くできると予算調製方針等に反映できうる。 ・総務省:地方財政をめぐる情勢や財源確保に向けた国の考え方など。三重テラス:県財政の視点からの調査。茨城県:資金調達の多様化の取り組み等の調査。など、その後の調査・審査に活用できた。 	4.1

項目	評価の視点	平均点
(5) 県民など多様な意見を活用した調査・審査の充実度	<p>「参考人招致」や「公聴会」における意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 「みえ現場de県議会」における県民の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 「みえ高校生県議会」における高校生の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 「請願」、「議員勉強会」、「県民の声」などにおける意見をその後の調査・審査に活用しましたか。 (評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外調査が参考人招致に結びついた。 ・県外調査で学んだ茨城県における資金調達手法について全委員参加の勉強会を実施して良かった。 ・「骨太の方針」が出される夏頃から参考人の選定を行ない、秋に実施すると予算・決算の議論により反映できうる。 ・県外調査の実績を活かした参考人招致を実施した。今後の調査・審議の参考となった。一層この種の調査を有効的に活用できるよう、定例的な年間活動計画との調整を図り、開催時期を検討すべき。 	3.8
(6) 調査・審査結果の施策への反映	<p>調査・審査の結果、施策へ反映したこと(例えば、経過報告を求めた、知事への申し入れを行った、議員提出条例の検討を行ったなど)について記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい財政への提言が弱い。 ・成果レポート等への反映。 ・知事への申し入れとして「臨時収入に依存しない財政運営の転換」をH29年度当初も実現できなかった。議会としてもう一步踏み込んだ提言ができえなかったことも要因と考えられる。 ・予算・決算の観点から総合的な調査・審査等を行い、委員会として当局に要望した事項等については極めて厳しく深刻な県財政の中にあっても一定程度の反映はできた。 	

評価は5点満点です。(5点・・・大変良くできた、4点・・・良くできた、3点・・・概ねできた、2点・・・あまりできなかった、1点・・・できなかった)
各項目の自由記載欄については、各委員個人の意見を掲載しております。